

「きぬむすめ」栽培ごよみ

収量と収量構成要素の目標値

収量	栽植密度	穂数	籾数	登熟歩合	千粒重
kg/10a	株/m ²	本/m ²	粒/m ²	%	g
570	22.2	340	30,000	85	22.5

栽培適地

平坦部～中山間部（標高300m以下）の早植～普通期栽培（5月上～下旬移植）に適する。

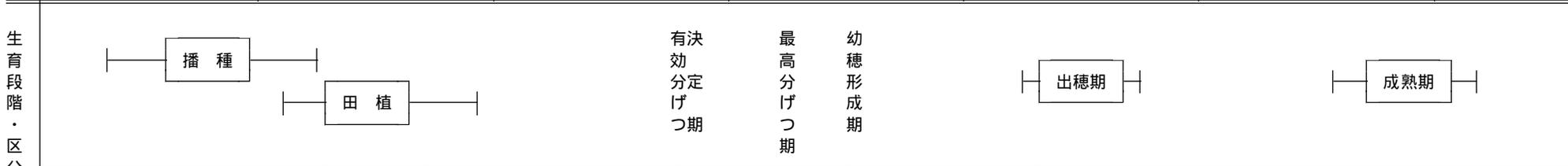
長所

1. 食味が良い。
2. 玄米品質が良い。
3. 多収である。

注意点

1. 倒伏を防ぐために、多肥栽培はしない。
2. いもち病耐病性は強くないので、適切な防除を行う。
3. 白葉枯病耐病性はやや弱いので、常発地での栽培は避ける。
4. 穂発芽防止のため適期刈取に努める。

月	4月					5月					6月					7月					8月					9月					10月				
	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25



草 丈	12cm					(稈長) 80cm程度														
1株茎数	3～4本					15本					21本					(穂数) 1株当り15本 m ² 当り340本				



ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・発芽が比較早いので、催芽中は芽の状態をよく確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・植え付けは株間15cm、条間30cmを基準とする 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な水管理で生育促進 ・倒伏防止のため中干しを徹底 ・分げつ盛期から茎数が少ない、葉色がうすい場合には中間追肥を施用 	<ul style="list-style-type: none"> ・籾数過多を避け整粒歩合の高い米づくり！ ・出穂前20日頃に第1回穂肥、出穂前10日頃に第2回穂肥を施用 	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な乾燥・調製で高品質米出荷
------	--	---	--	---	--

技術内容	<p>健康な苗づくりを！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外気温にならして健苗育成 ・硬化期は温度管理に注意 ・薄まきの励行 一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇 ・ハト胸状態を確認して播く ・催芽は三〇～三二 ・浸種は積算水温で六〇～八〇 	<p>基肥の施肥量は適正に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窒素成分量は三、四kg/一〇a 	<p>初期生育の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低温時や強風時は深水 ・浅水管理により水温を高く維持 	<p>中干しの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一株一五本以上になったら中干し ・作溝の励行 	<p>穂肥の時期は適期に！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窒素成分量で1kg/一〇a程度を施用 ・茎数が少ない、葉色がうすい場合には中間追肥 ・分げつ盛期から ・一株一五本以上になったら中干し ・作溝の励行 	<ul style="list-style-type: none"> ・出穂後三〇日程度は間断かん水 ・穂いもち、カメムシ防除 ・仕上げはきちんと！ ・適期刈り取り 青味籾率一〇～一五% ・適正な乾燥 水分一五% 適正な調製
------	--	---	--	---	--	---